

2019年度（令和元年度）  
第7期柏市高齢者いきいきプラン2.1 進捗状況  
（主なポイント）

資料1-2に記載した各指標ごとの取り組み状況や課題について、2018年度と比較して評価が上がった指標や下がった指標などの4つの視点から、下記にまとめました。第7期プランの進捗状況については、下記の番号を中心として、資料1-2の「取組状況や課題」をご確認ください。なお、この資料の「番号」は、資料1-2の番号に対応しています。

1 2019年度第7期柏市高齢者いきいきプラン2.1実績（全体）

計画通りかそれ以上に進んでいるのは75.3%と、多くの指標が計画通り進んでいます。一方、計画より取り組みが遅れている指標も16.8%あるため、取り組みの工夫や、指標の設定の妥当性の検証を行ってまいります。

実績評価	件	割合
◎：計画を上回って進んでいる	33	32.7%
○：ほぼ計画どおり進んでいる	43	42.6%
△：計画よりやや取り組みが遅れている	17	16.8%
×：計画の取り組みが遅れ、見直しが必要である	0	
－：未評価	8	7.9%
計	101	

2 評価が上がった指標

2018年度と比較して、9つの指標の評価が上がりました。フレイル予防の普及啓発やボランティア登録者数、たすけあい活動など、社会参加につながる指標が向上しています。

これらの指標の向上は、事業に参加している市民だけでなく、その周囲の人まで事業の効果の波及が期待できるため、引き続き取り組み

を進めてまいります。

番号	事業名	指標の項目
4	フレイル予防活動の普及・啓発	フレイル予防に取り組む高齢者数
5	市民サポーター活動の普及・啓発	介護支援サポーターの登録者数
18	地域でのボランティア活動の推進	ボランティアセンターへのボランティアの登録者数
27	生活支援サービスの提供体制の構築	たすけあい活動の延べ利用件数
52	認知症サポーターキャラバン事業の充実	かしわオレンジフレンズの活動者数
59	認知症地域支援推進員による相談支援体制の充実	認知症相談件数(実件数)
63	高齢者虐待防止の普及啓発・相談体制の整備	権利擁護に関する相談件数
68	振り込め詐欺や消費者トラブルの未然防止	防犯講習会実施回数
82	在宅福祉サービスによる高齢者支援(介護保険外)	施設入所した人の割合

### 3 評価が「計画よりやや取り組みが遅れている」に下がった指標

2018年度と比較して評価が「計画よりやや取り組みが遅れている」に下がった指標は5つでした。

在宅医療・在宅療養に関する相談については、実件数が減少しているため△としています。しかし、多職種の対応能力の向上の結果により減少している側面もあります。

居住系サービスの整備については、公募を2回行ったものの、事業所が辞退したことなどにより、選定には至らなかったため、指標を満たしていないものです。

やむを得ず達成できなかった指標もありますが、2020年度は達成できるよう取り組みを工夫してまいります。

番号	事業名	指標の項目
36	在宅医療・在宅療養に関する相談・調整支援	相談件数（実人数）
58	認知症初期集中支援推進事業の推進	認知症初期集中支援チームによる支援者件数
72 73	居住系サービスの整備	グループホームの事業所数・定員数
88	給付実績の活用	点検項目

#### 4 2018年度・2019年度ともに「計画よりやや取り組みが遅れている」指標

両年度ともに「計画よりやや取り組みが遅れている」指標は7つでした。

介護人材の確保や介護保険事業適正化の推進については、介護保険制度を支えるものであり、これまでも様々な工夫をしながら事業に取り組むことで指標の達成を目指してきました。しかし、関係者間での検討を更に深めることで指標の達成に向けた取り組みを行います。

番号	事業名	指標の項目
6	介護予防センターの機能強化	介護予防センターでのフレイル予防講座参加者数
10	健康相談・各種健診事業の推進	健康相談実施状況
49	認知症理解のための普及・啓発	かしわ認知症オレンジパスの配布（累計）
62	高齢者虐待防止の普及啓発・相談体制の整備	高齢者の権利擁護に関する講演会や研修会の参加人数
70	在宅生活を支援するための24時間対応型サービスの整備	在宅医療・介護サービス拠点の整備
83	介護人材の確保	2018年度まで 学生向け介護人材啓発・確保事業「柏の〇

		(わ)」の参加者数 2019年度から 定着促進・スキルアップ事業「柏の〇(わ)」の参加者数
86	介護保険事業の適正化の推進	30日以内に要介護(要支援)認定をする割合

## 5 健康とくらしの調査で確認した指標

3年に一度の調査である「健康とくらしの調査」で取得した指標です。市の施策だけでは向上が難しい指標もありますが、健康寿命の延伸や適切なサービスにつながるために必要な指標であるため、引き続き定期的に測定していく必要があります。

「スポーツの会・趣味の会・ボランティア・学習教養サークル参加者割合」については、過去の調査では向上してきましたが、今回の調査では減少しました。社会参加はフレイル予防の重要な要素であるため、全国の調査結果が発表されましたら、調査結果の分析と対応の検討を行います。

番号	指標の項目
2	フレイル予防プロジェクト2025の推進
11	友人・知人と会う頻度が高い人の割合
15	社会参加：スポーツの会・趣味の会・ボランティア・学習教養サークル参加者割合の向上
22	地域の中で安心して生活できていると感じている人の割合
48	認知症の相談先を知っている人の割合
61	成年後見制度を知っている人の割合
94	住んでいる地域に愛着があると答える人の割合